

第13回 日本腎不全看護学会 学術集会

— 聴こう 語ろう 腎不全と 生きること —

福腎協の皆様のご協力感謝申し上げます。パワーをいただいたという看護師が多かったです。明日からまた頑張ってみようと思ったという声も多かったです。
学会が終わって…全部夢の中の出来事だったような…ふわふわした感じしております。(11/17) 下山大会長談



患者の日常生活（余暇利用）の体験発表など、全国の看護師さん達に患者会の活動を実感していただき、福腎協の部屋の準備から、多くの支援をいただき、学会関係の皆様から感謝とお礼を申し上げる次第です。楽しい学会でしたね。(11/15) 塩屋会長談

お手伝いくださった看護師さんと一緒に



学会後、お礼状をいただきありがとうございました。

学会理事長

第14回学会大会長

福腎協の皆様の暖かいご支援のおかげで多くの看護師さん達が、看護するうえで一番**大事なこと**を学ぶことができました。素晴らしい学会でした。本当にありがとうございました。感謝しております。
医療法人沖縄徳洲会葉山ハートセンター
看護部長 水附裕子様

第13回学術集会は、九州全県の看護師たちが、力を寄り合わせ、本当に手作りで作り上げた**タペストリー**のような学会でした。そしてそのタペストリーに患者会の皆様の心が、一緒に編みこまれ、見事な花となり、多くの看護師たちに**感動**を与えてくれました。
医療法人真仁会横須賀クリニック 看護部長 萩原千鶴子様

イギリス再訪奮闘記(上)

藤野 和恵
(島松内科医院腎友会)

今号より記事を担当することになりました藤野です。前号『お元気さん』でこの夏の訪英について紹介していただきましたが、今回は『イギリス再訪奮闘記』として、三回シリーズでこの旅が成功するまでの過程を振り返ってみようと思います。どうぞよろしくおつきあいください。

イギリスへ行こう！

私は大学時代に交換留学で1年、就職後能力開発の名目で休職して1年、イギリス・ニューカッスルの大学・大学院へ留学し、英語教育の修士号を取得しました。かくして8年前に透析を始めてからも、この「第二の故郷」を必ず再訪したいと思い続けてきたのです。しかし働ける時間が限られているからこそ長期の休暇取得はためらわれ、また日本とかなり透析事情が異なると聞く欧米の訪問に対しても、なかなか勇気が出ませんでした。そこへ大学での教職が中心となり、夏季にある程度の休みが入るようになった今年、この休暇を無為に過ごすことはなかろうと長年の夢だったイギリス再訪を思い立ったのが6月末のこと。格安の航空券を見つけ、問い合わせると残り数席と言うではないですか！それではと仮予約を依頼し、慌てて現地の透析施設を探すことにしたのでした（が、通常は受け入れ施設探しが先です。よい子の皆さんは決して真似しないようにしてくださいね！）。9月はじめの11日間を充てることにし、早速計画開始です。

透析施設探し

さて、次は受け入れてくれる施設を探さなくてはなりません。世界中の透析施設を紹介した便利なサイトもありました (<http://www.globaldialysis.com/>) が、旅行者が他国で受ける透析をholiday dialysisと呼ぶことは知っていたので、この語や地名 (London) をキーワードにネット検索を試みました。何とかクリニックは見つかりましたが、検査データひとつでも直近のものを要求されたり、それが届かないと予約が確定しないなど注文が多く、これまでに経験した台湾やシンガポールへの旅より余程手間がかかります。それでも何とか受け入れてくれそうところを見つけ、今度は現地で知人と会う日取りを決めるなど、プライベート面での計画を進めるまでに至りました。

(つづく)